

第7回 四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会 議事概要

●第7回 四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会

- ・日 時：令和8年1月29日(木) 15:00~17:00
- ・場 所：四万十市防災センター会議室
- ・出席者：四万十市長、中村商工会議所会頭、(一社)中村青年会議所理事長、
四万十つるの里づくりの会会長、四万十川自然再生協議会会長、
高知野鳥の会会長、国土交通省中村河川国道事務所所長
- ・講 師：舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会 会長
- ・取組発表：東中筋小学校校長、6年生児童(9名) ※発表のみで退出
- ・事務局：中村河川国道事務所、(公財)日本生態系協会

●開催状況



●議事

- ・四万十市立東中筋小学校6年生が、東中筋小学校で20年に渡って実施してきたツルの自然体験学習の取組について、発表を行った。
- ・「ツル類の飛来状況と今年度の取組報告」、「中期目標の達成に向けた取組(案)及び来年度の取組の方向性」について議論した。
- ・北海道長沼町において、タンチョウの見守り活動を行っている舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会 会長との意見交換会を行った。

●主な意見

□中期目標の達成に向けた取組(案)及び来年度の取組の方向性について

- ・農業改良普及センターからの指導もあり、二番穂を残す農家はほとんどいないため。二番穂を残してもらうための具体的な施策が必要である。
- ・二番穂を残してもらうため、農家へのヒアリングや相談を今後は進めていきたい。
- ・昨年から米が値上がりしている状況を踏まえると、更なる付加価値化は難しいと感じる。
- ・農業高校を含めた専門学科のある高校で行われる研究発表の題材として、商品開発はもちろん、環境問題も対象になるのではないかと。小学校だけでなく、各世代でツルの学習を継続してつなげることが重要である。

□舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会との意見交換会について

- ・長沼町ではタンチョウとの共生をめざした「タンチョウも住めるまちづくり」が推進されている。
- ・長沼町で行われている見守り活動では、町内外からの参加があり、取組を理解・応援してもらえるような優しい声掛けや情報を広く周知することを心掛けている。
- ・見守り活動の結果、最近ではマナーの悪い人はほとんどいなくなった。
- ・タンチョウが安定して繁殖するようになり、近年長沼町では「長沼タンチョウ・ガイド」も立ち上がり、企業との連携も進むなど、取組が発展・拡大している。